

新年おめでとうございます。
本年も何とぞよろしく願い申し上げます。
亥の年らしく猪突猛進したいと思います。

親学講座のご案内

子育て中の保護者さんのみならず、孫曾孫をお持ちの祖父母様、曾祖父母様、教育に関わられる方、そして何より御自身の教養のために……。東温市における第7回でございます。

日時：2月2日（土）午後2時～4時
会場：東温市川内公民館3階第3学習室
受講料：2000円
講師：杉本哲也先生
後援：東温市教育委員会申請中

12月25日の親学講座のご報告

東温市川内公民会で18：30～20：30に開催、10名のご参加がございました。

中国の100年マラソンをご存じでしょうか。中国は100年かけて米国のGDPの2倍をめざしてきました。ネットでCountry GDP Projectionを検索されたら詳細がお分かりになりますが、2028年には米国と中国のGDPは同等、日本、インド、ドイツが続きます。2065年には、中国、インド、アメリカ、日本という順番です。2100年でも中国、インド、アメリカ、日本という順序らしいです。杉本先生は、中国に対抗するには、日本は米国とインドと仲良くすることが重要である、と。

また、ハドソン研究所のマイケル・ピルズベリー氏の著書「CHINA 2049」の

- 1) 脆弱な中国を助けてやれば、民主的な平和的な大国になるということはない。中国が世界支配を目論むことはないという米国の考え方は間違い。
- 2) 中国の経済バブルが崩壊するという見通しは甘い。
- 3) 中国の反政府派が民主化運動を起こすという目論み見も見当外れ。

という見解や、オーストラリアの中国化をご自身の視察旅行から視覚的にご紹介になりました。豪州は捕鯨問題で見られるように反日姿勢が顕著な面もありますが、ダ

ーウィンでは毎年、日本とオーストラリアの両国の兵士のための慰霊祭が行われるなど友好国でもあります。

西岡京治、野内与吉、太田恭三郎、小辻節三、山田寅次郎をご存じでしょうか。対立、緊張が高まる世界情勢にあって、どんな教育が必要とされるでしょうか。自分はこうした海外で高く評価され尊敬されている日本人と同じ日本人なのだと知ること。日本に迫る脅威に対峙するには、日本人としての自尊心を養い、日本人の天分を活かしていくことが必須であります。

因みに、上記の方々の偉業を一言ずつ。

☆西岡京治（1933－1992）

ブータンの農業の発展に大きく貢献。大阪府八尾出身。

☆野内与吉（1895－1969）

マチュピチュ遺蹟の麓で、鉄道をひきマチュピチュ村を作った初代村長。

☆太田恭三郎（1876－1917）

ダパオ開拓の父。麻畑を作りやがて町になった。

☆小辻節三（1899－1973）

杉原千畝の「命のビザ」を引き継いだ。ユダヤ教研究者。京都出身。

☆山田寅次郎（1866－1957）

エルトゥールル号遭難事件の義援金を届けにトルコに渡って日土の交流を打ち立てた。茶人。実業家。

今の子供たちは生活習慣が乱れています。家庭での身につけさせる生活習慣のポイントは：

- 1) 睡眠時間。早寝早起き。
- 2) 朝食を食べる。食事はよくかむ。ご飯をしっかり食べる。
- 3) 歯磨き
- 4) 排泄

これらがちゃんとできていると社会人になったときに威力を発揮します。

子供はどんなときに幸せでしょう。子供の幸せの作り方のポイントは：

- 1) 自己肯定感・・・ありのままでもいいんだよ。
- 2) 共生意識・・・ありがとうの気持ち。
- 3) 成長意欲・・・やってみよう！
- 4) ポジティブ思考・・・なんとかなる！

子供の貧困が問題になっています。これは離婚率と相関関係があります。相対的貧困世帯の子供は約326万人います。約3万人が家庭を離れて施設などに収容されている。約30万人が生活保護世帯の子供である。低所得世帯の子供が約300万人。3万、30万、300万と覚えやすいです。

経済的貧困の子供は、学校にノートを持ってこない、冬でも靴下を穿いていない、サンダルでサッカーをしているなどに表れます。精神的貧困の子供は、家庭に居場所がない、自己肯定感が低下する、将来に失望している、慢性的に空腹を抱えている、義父への復讐心を秘めているといった特徴があります。

杉本先生は「門真子ども炊き出し」を年に2回されています。この炊き出しの対象の子供は上記の326万人には入りません。家庭がありながら、たとえば母親に再婚相手との間に子供（弟妹）ができ、継父は実子のみ可愛がり、家庭に落ち着ける場所のないなどの子供たちです。炊き出しをする目的は、真面目に生きているといいことがある！という希望を持たせること、自己肯定感を高めること。以前は昼食はカレーライスを出していたのを、オムライスに変えたそうです。美術部出身のスタッフを動員して、子供の注文に応じて、ドラエモン、ちびまるこ、ピカチュウ、アンパンマンなどの絵をケチャップで描いていくのです。それで、子供たちの様子が変わるそうです。自分だけのオムライス！自分の希望に応えてもらった！子どもの自己肯定感にとってとても重要なことです。

少年院の教育再生プログラムの1つに、日本の伝統行事を取り入れるというのがあるそうです。お正月、七草がゆ、桃の節句、端午の節句、七夕…。無病息災を祈願するこうした日本の伝統行事を通して、少年少女たちは、「仲間がいる！」と思えるようになり、また「反省」ができるようになるそうです。

他にも、韓国の徴用工（いつまで徴用工というのでしょうか）や慰安婦の問題についても、朝鮮人韓国人の多い大阪にお住まいの視点から、こうした問題が虚構であることをお話下さいました。また、「ビハインド・ザ・コーヴ」上映会（2月9日）に絡んで、日本が脱退を決めたIWC（国際捕鯨委員会）の問題点や、日本の文化を子孫に伝えよ、とお話いただきました。

参加者のご感想です。

★興味深いお話でした。徴用工と慰安婦の関係が理解できました。中国は本当に怖いと思いました。インドと仲よくならなくては！！若い方に聞いてほしいと心から思いました。あっというまの2時間でした。知らないことばかりでした。（50代 主婦）

★GDPの予想はためになりました。反日の実態を取り上げていただきたいと思いました。50代 女性）

★子供の幸せについて、子供の心情、伸ばし方を具体的にお聞きしてよかったです。大変分かりやすいお話で良かったです。アメリカと日本の関係について、非公開の部分を取り上げてもらいたい。

もっと多くの方々へお話する機会があればいいと感じました。（60代 男性）

杉本先生のご紹介を兼ねて、先生のフェイスブック投稿を掲載させていただきます。

[1月6日]

教育哲学者の森信三(もりのぶぞう)先生の「三つのしつけ」の2番目は「名前を呼ばれたら返事は「ハイ」」である。これはその人の素直さが試されていることであり、人間教育の基本だと言われている。

昨日今日といろんな会合に参加をしたのだが、政治関係者を中心として、来賓で名前を呼ばれても返事をせずに自分の言いたいことだけを述べる人が多い。祝辞の中で幼児教育や学校教育に言及するのであれば、せめて『ハイ』と返事をした上で話すべきであろう。

なぜこういうことになるのかと言え、今年は12年に1度の選挙年であり、自分のアピールに頭がいっぱいだから、返事することがすっかり抜け落ちる。有権者はアピールには振り向かない。むしろ票を積み重ねたければ、来賓紹介の時に大きな声で返事を『ハイ』とするほうが効果的なのである。

四書五経の『大学』に「十目の見るところ十手の指さすところそれ厳なるかな」という言葉があるが、有権者の目は厳しい。選挙は期間中にどれだけアピールしているかでは決まらず、候補者の人柄に応じた素直な結果が出てくるのである。

森信三先生の「三つのしつけ」を『致知』1985年11月号より引用致します。

- 1、朝、必ず親に挨拶をする子にすること。
- 2、親に呼ばれたら必ず、「ハイ」とハッキリ返事のできる子にすること。
- 3、ハキモノを脱いだら必ずそろえ、席を立ったら必ずイスを入れる子にすること。

じゃ、このしつけのコツはというと、まず、母親自身が、ご主人に対して朝の挨拶をハッキリするようにし、また、ご主人から呼ばれたら、必ず「ハイ」とはっきりした返事をするように努力することです。

この「ハイ」という一語によって、その人は「我」を捨てるわけです。つまりそれまでの意地や張りの一切を投げ捨てるわけです。同時に、それによって当の本人はもとより、一家の人びとの雰囲気までが変わりだす。

昔ね、登校拒否の中学生をもって困り抜いたお母さんから相談を受けたんですがね、その解決法はただ一つあるだけで、それは明日からあなたがご主人によく透る声で「ハイ」と返事をされることですといった。その人はその通りしたんでしょう、その子どもはその後11日目にはもう登校しだしたとのことでした。

「ハイ」という言葉が本当にいえたら、非行少年でも徐々に変わってくる。ところが、本当に「ハイ」がいえる婦人は百人のうち、二、三人じゃないかな。

表現を変えればね、これだけの俸給を得るために、主人がどれほど下げたくない頭を下げ、いいたくないお世辞をいっているか——ということのわかる奥さんにして、初めて聡明な母親となるわけです。

杉本先生のフェイスブックの「どこのイトインも椅子がぐちゃぐちゃ。以前は心の中で眉をひそめていましたが、私もここを使わせていただくのだから「お礼！」と思って揃えることにしました。気持ちいいです」という書き込みに杉本先生は「批判より実践のほうが幸せになれますよね。」と返信されていました。

12月23日 奉祝 天長節 講演会

評論家の江崎道朗氏が天皇陛下のお誕生日をお祝いする集いで『天皇陛下の御聖徳を仰ぐ』と題して講演されました。大変素晴らしく感動的なものでございました。
<https://youtu.be/Li8RdR43-IM> で集い全編が動画で視聴できます。江崎先生のご講演は20分過ぎから95分間です。是非ご覧ください。

特に私（青井）が深い深い感銘を受けたところを書かせていただきます。

★昭和27年11月10日、立太子礼後の学習院での祝賀会でのお言葉。
「…私は私に与えられた運命を逃避することなく、運命の奥に使命を自覚し、これを果たす…。…これからの困難な道を進みたいと思います。」

逃避されたくないような困難な現実とは何だったのでしょうか。

- 1) 国政についての発言権を剥奪
- 2) 皇室を支える組織が廃止、縮小へ
- 3) 皇室経費は国会のコントロール下へ
- 4) 十一宮家は臣籍降下
- 5) 旧皇室典範など関係法令の大半が廃止
- 6) 学校で「皇室排除」教育が横行
- 7) 刑法の「不敬罪」が廃止

昭和50年くらいまでは日本政府は占領政策に抵抗し、日本の伝統を守ろうとしていましたが、政府自民党が左傾化し、変質した政府と両陛下の戦いが始まりました。

●昭和52年7月23日、文部省は学習指導要領を改訂し、「天皇についての理解と敬愛の念を深める」などの字句を削除。

昭和52年12月、天皇陛下は、浩宮殿下と共に天皇の歴史を学ぶ意向を示されます。《天皇の歴史というものを、その事実というか、そういったものを知ることによって、自分自身の中に、皇族はどうあるべきかということが、次第に形作られてくるのではないかと期待しているわけです。》

●大平内閣の昭和54年4月17日、真田秀夫内閣法制局長官「憲法第二十条第三項の規定がございますので、…国が大嘗祭という儀式を行うことは許されない」

昭和56年、皇后陛下（47歳）「歴代の天皇方が、まずご自身のお心の清明ということを目指されて、また自然の大きな力や祖先のご加護を頼まれて、国民の幸福を願っていらしたと思います。その伝統を踏まえる限り、どんな時代でも皇室の姿というものに変わりはないと思います」

政府が皇室の伝統を否定しようとも、皇室の伝統は断固守る！というお気持ちであられたことでしょう。

朝日新聞らの攻撃もありました。

●「護憲天皇」「伝統軽視の天皇」というレッテルがされました。

天皇陛下はお立場上、憲法に賛成とも反対とも言及はおできになりません。平成10年のお誕生日前の記者会見で天皇陛下は「日本国憲法で、天皇は日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であると規定されています。この規定と、国民の幸せを常に願っていた天皇の歴史に思いを致し、国と国民のために尽くすことが天皇の務めであると思っています」とお述べになっておられます。国と国民のため、これが皇室の伝統であると。

●また、平成5年8月、細川首相は「侵略戦争」発言を、平成7年の終戦記念日には、「植民地支配と侵略」という村山談話が出されました。

両陛下は戦没者を追悼されます。

平成7年、陛下は国内の霊に尽くしたいとおっしゃり、外国訪問をゼロになさいました。

御製「戦後五十年遺族の上を思ひてよめる」（平成7年）

国がためあまた逝きしを悼みつつ平らけき世を願ひあゆまむ

「国がため」にこんなに深い意味があったとは！政府の発言に「こんな汚名を着せられるなら長生きしなきゃよかった」と思われた遺族は、どんなにか救われたことでしょう。

御歌「終戦記念日」（平成8年）

海陸（うみくが）のいづへを知らず姿なきあまたの御霊国護るらむ

まだ100万柱が日本にお戻りになっていないが、その方々のおかげで日本は護られている。政府や政治家が御霊のことを忘れようとも自分達は忘れない。両陛下のこうしたお気持ちがなければ日本はどうなったでしょう。

御製「日本傷痍軍会創立四十五周年にあたり」（平成10年）

国のため尽くさむとして戦いに傷つきし人のうへを忘れず

江崎先生の講演をお聞きして両陛下の御苦勞が偲ばれ、感謝と尊敬の気持ちで一杯です。尚、この講演内容は書物となって2月に出版されます。

江崎先生ご著書ご紹介

『知りたくないではすまされない』

～ニュースの裏側を見抜くためにこれだけは学んでおきたいこと～ KADOKAWA 1400+税

なぜ日本人は世界の行方を見誤るのか？トランプ大統領誕生をみごとに予想した気鋭の評論家が、エコノミストの知らない国際情勢の読み解きを伝授する！



軍事評論家、渡部悦和・元陸上自衛隊東部方面総監の書評
一気に読了しました。「この本は江崎さんだからこそ書ける分かりやすい秀作だ」というのが読了後の感想です。米軍の元情報将校との出会い、江崎さん自身の誠実な人柄と素直な探究心があればこそ、この本は誕生したのだと思います。

私も江崎さんと同じ様に、米国の情報将校と付き合いただけに、江崎さんの主張したいことはよく分かります。

例えば、「アメリカは自助努力をしない同盟国を守ることはできない。見捨てるだけだ」、「同盟は、ギブ・アンド・テイクであり、アメリカにとっても利益になるから続くのであって、アメリカの国益につながらない限り、日本を守るわけがない」、「自らの国益は与えられるものではなく、勝ち取るものだ」などの指摘は仰る通りです。

是非皆さんに理解してもらいたい点を指摘します。

ODIME の重要性です。Diplomacy Intelligence Military Economy の重要性です。例えば、「中国に対しては軍事も重要だが、それ以上に外交、インテリジェンス、経済などの分野で抑止を行なっていくことが重要だ」という主張になります。

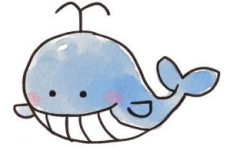
○江崎さんは、基本的にはトランプ政権を評価していますが、「トランプ政権は、安倍首相の外交的手腕を高く評価していると思われるが、だからといって中国に立ち向かううえで、日本を頼りになる同盟国と見なしているわけではない」、「米中貿易戦争の傍観者になってはいけない」などの主張は江崎さんの真骨頂です。

これ以上書くと営業妨害になりますから書きませんが、是非購入して熟読してみてください。

『Behind "THE COVE"』上映会&監督トークショー

11月4日の上映会がきっかけで、再度上映会を開催する運びになりました。この度は上映実行委員会を立ち上げ、実行委員長には映画制作に資金援助された(株)友清白蟻の友清重孝社長がご就任下さりました。八木景子監督には松山にお出でいただき上映会後の講演をしていただきます。また質疑の時間には監督はすべての質問にお応えしたいとおっしゃっておられます。目下、前売り券(くじらの浮世絵絵はがきのおまけ付き)を頒布中でございます。

開催日：2月9日（土）13時開場
プログラム：「映画上映」と「監督の講演」
13:30～15:20 上映
15:20～15:30 休憩
15:30～ 講演&質疑
会場：愛媛県立美術館の講堂（120名収容）
入場料：2000円 学生1000円



以下の方々が実行委員としてご協力下さっております。

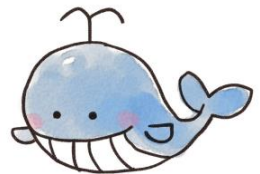
（敬称略）相原宗正（東温市浮嶋神社宮司）・上田稔（学校法人聖カタリナ学園事務局長）・大本雅代（シンガー）・北橋豊作（伊予市議会議員）・久保榮（伊予市議会議員）・重松恵三（愛媛偕行石鉄会会長）・瀬川紘一郎（愛媛県隊友会長）・高田浩司（伊予市議会議員）・武井理彦（めざす会）・竹田祥一（日本会議愛媛県本部長）・武智利博（伊予史談会名誉顧問・愛媛の漁村研究家）・田中弘（伊予市議会議員）・谷本勝俊（伊予市議会議員）・長曾我部昭一郎（椿神社宮司）・寺井政博（今治市議会議員）・土井田学（松山市議会議員）・友清重孝（株）友清白蟻社長）・野田裕久（愛媛大学教授）・原俊司（松山市議会議員）・藤田昌大（和光会館代表）・堀川亮子（新生仏教）・森川建司（伊予市議会議員）・森京典（今治市議会議員）・安岡富士子（日本総合医学会理事長）・渡部浩三（重文渡部家住宅保護財団当主）・渡辺伸吾（めざす会）・青井美智子（めざす会会長）

11月4日上映会のご報告

砥部町文化会館で開催、24名の参加でございました。

【終了後の森川建司氏のご挨拶】

私の所見を4点ほど述べさせていただきます。



まず。八木景子監督は、映画制作のご経験もないまま、太地町でいろいろな立場の方々 に取材をされ、また、IWC(国際捕鯨委員会)の関係者、水産庁の役人にもインタビューをされ、さらにワシントンまで資料を求めて行かれた。その映像素材を1500時間もかけてこの映画にまとめ上げられた。女一人、ここまでされている。それに比して、日本政府は何をやっているのか。

それから。アメリカは広島と長崎に原爆を落とし、無辜の市民30万人を殺した。それをカモフラージュしたがいのために南京大虐殺をでっち上げた。それと同じようにベトナム戦争でのアメリカ軍の行為に対する批判をかわすために反捕鯨団体を立ち上げて日本の捕鯨を非人道的だと言わせている。アメリカの占領はまだ終わっていないと思わざるを得ない。

さらに、アングロサクソンが 如何に残虐であるか。彼らの歴史は策士のそれである。1500年ごろからアメリカ、アジアの国々を植民地にし、植民地から絞り上げられるだけ絞り上げてきた。鯨に関しても、アメリカが捕鯨している時代に乱獲し取り尽くしてきた。そういうのが彼らのやり方。アングロサクソンの DNA と言ってもいいのではないか。日本人は自然を大事にしながら、自然と調和しながら、計画的な漁をする。そういう DNA を持っている。彼らと我々の DNA の違いを嫌というほど感じます。

4つ目になります。鯨を通じての食文化だけでなく、鯨のあらゆる部分を一つも無駄にすることなく活かしていく、そういう日本人の伝統の素晴らしさも感じた次第です。私は小さいときに鯨を食べた記憶がありますが、食糧難の時期に南氷洋まで荒波をくぐって行き鯨漁をされ、日本の厳しい食料事情を救ってくれた、日

本人を飢えから救ってくれた捕鯨師に感謝したいと思います。

さらに申し上げますと、食は文化であると思います。アメリカからケチがついてもちゃんと反論するには、日本人の伝統文化への自信と誇りを取り戻すことが急務です。そのためにも憲法改正を早急にしなければならぬと思っています。今後ともさらなるご協力をお願いいたします。

参加者アンケート

24名のご参加のうち17名の方がアンケートを提出して下さいました。

★八木景子監督へのメッセージ

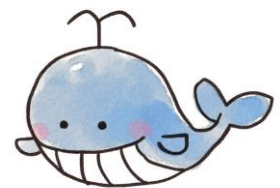
- ★日本の伝統文化を守っていくことが必要。(60～70代男性)
- ★自分達が知らない事(アメリカの策略等)を教えていただきありがとうございました。欧米人に、食物にも命があってそれをいただいていることを教えたいです。(50代女性)
- ★このような映画をこれからも作って下さい。(60～70代男性)
- ★勇気ある行動に感謝します。日本の報道がもっと日本について正しく報道してほしいと思います。(60～70代女性)
- ★良かった。つづけてほしい。この映画はみな見るべきと思う。(60～70代男性)
- ★素晴らしい素材ですが、初めて見る方には分かりにくいところが多い。事前に説明があればよい。何についてのインタビューか、項目の表示があれば分かりやすいと思った。終盤はとても良かった。(60～70代男性)
- ★トランプ大統領の考えと No.1主義、第2次世界大戦の日本の立場を良く表していると感じた。(80代男性)
- ★日本の食文化を守って行く事は大切だと思います。報道をすべて信じ無い様にしないといけない。両方の意見が有る報道は信頼出来ると思います。(50代男性)
- ★八木さんの勇敢な行動、撮影に感動しました。よくわかりました。本当に子供の時に食べた鯨が忘れられないですね。(60～70代女性)
- ★日本人は何か外国などから言われても反論しない。いつも言われっぱなしで静かになるのを待っている。耐え忍ぶ。これはストレスになって蓄積される。中立的な立ち位置でも、普段その経験がないから反論に感じられて気持ち良く観れた。ありがとうございました。もっと多くの人に観てもらいたい。(60～70代男性)
- ★日本人が主張をしなさすぎなのが問題である。(30～40代男性)
- ★日本女性はすごいなあ。相手の主張を公平に聞いてちゃんと作品にできている。相手にしゃべらせている。国際社会に伝えるには公平な視点に立った主張が大切ですね。(30～40代男性)
- ★反捕鯨活動に疑問をもっていました。やはり、裏でお金と政治的思惑があったことを、取材して発表して下さいありがとうございました。日本人のひかえめな国民性が、利用されていることも腹立たしく感じました。今後、日本人は言うべきことを伝えていくことを、そして、違うこと(プロパガンダ)には、間違っていると声をあげていかなければ、日本という国がなくなるかもしれないという、危機感を持ち、行動しなければならないと思いました。後世をひきつぐ子供たちにも真実の歴史を伝える必要があり、教育を変えていかなければならないとも感じました。(30～40代男性)
- ★小笠原でも亀の肉を食べる。食文化は歴史の一部であり、他国に？(1字不明)すまれるものではないと考えます。(60～70代男性)
- ★八木様のこれまでのご経歴は存じませんが、数ヶ月に及ぶ滞在でのドキュメンタリー制作ありがとうございました。食文化、もあります。一番大切なこと、日本人は命に敬意を表してきた。こんな国、民族はありません。ここを忘れてはならないですね。(50代女性)

●運営側へのご意見・ご希望

- なかなか見る機会のない映画の上映をありがとうございました。（60代男性）
- 今後もこのような活動を続けて下さい。（60～70代男性）
- 画面をもっと上方に。人の頭にかくれて下の文字が読めない。（60～70代男性）
- 大変ですが頑張って会を広げて下さい。（80代男性）
- 本日の映画は私なりに色々と勉強になりました。これからもがんばって下さい。（60～70代男性）
- 本日はありがとうございました。大変良い会でした。（30～40代男性）
- この映画を上映して下さい、ありがとうございました。（30～40代男性）
- なかなか地方では上映できないでしょうが、松山から外へも出てもらいたい（60～70代男性）

八木景子監督からのメッセージ FB よい

[1月8日][世界中の皆様へ拡散のお願い](English below)



今熱い日本の捕鯨問題ですが、日本からの発信不足が問題だと思っています。

そういった多くの指摘を受けている中、現在、「Behind THE COVE」は、各社大手配信会社からネットで配信、また、DVDも発売されており、ほぼ、全てのジャンルからご鑑賞頂ける環境を各社のご協力により頂いています。

特に、Netflix社さんからは、多様な言語に翻訳してくださり世界中189ヶ国（北朝鮮など国交がない国以外）、ほぼ全ての国へ配信中です。映画業界の方ならご存知かもしれませんが、これは、滅多にない大変貴重な機会なのです。

この機会を無駄にしないよう、ぜひとも、皆さんの周囲の海外にお住まいの方にも、「Behind THE COVE」が鑑賞できる環境が整っている期間中に、お見逃さないよう、拡散していただければ幸いです。

特に今年は、捕鯨問題においては重要な年であり、賛否を巡る情報が「映像発信は反対派でほぼ、一色」になっていますので、まずはこれまで流された情報とは「逆の意見も伝え」、情報を提供した上で考えてもらう必要があると思っています。

また、国内だけではなく、海外でのQ&Aセッションの上映会も受け付けております。学校や町内会、日本人会などでの開催のご検討をお願いできれば幸いです。

海外の方で映画を鑑賞された方の多くからは「Amazing（目からウロコ）で知らない事ばかりで驚いた」と、良い感想をもらっています。中には、これまで、シーシェパードのキャンペーンに参加、寄付をしていた方も止めたという方もいます。

DVDは、日本語版だけでなく、日・英のバイリンガル版や、様々な他言語でも用意しております。日本語版以外は一般市販をしていないので、下記の事務局のメールアドレスまで、お問い合わせいただければと思います。

behindthecoveJAPAN@gmail.com

◎国内&海外：DVD販売

◎国内&海外：上映会

◎国内&海外：ネット配信 Netflix & iTunes

【国内ネット配信会社各社】

- ◇Netflix ◇iTunes Store ◇Amazon ビデオ ◇dTV
- ◇GooglePlay/YouTube(有料配信) ◇ビデオマーケット
- ◇GYAO!ストア ◇U-NEXT ◇クラクイン!ビデオ
- ◇TSUTAYA TV ◇DMM.com ◇ひかり TV
- ◇VIDEX.jp ◇楽天 SHOWTIME ◇LEONET ◇アクトビラ
- ◇J:COM オンデマンド ◇ビデオパス ◇ミルプラス

【謹賀新年】1月2日

明けましておめでとうございます。

昨年も多くの方々との出逢いがあり、応援をいただき心より感謝申し上げます。

昨年末は政府の IWC 脱退という発表で、今年は、いろんな意味で捕鯨問題を取り扱った「Behind THE COVE」にも影響が出てきそうです。

緊張感が高まる中、欧米での捕鯨に対しネガティブな報道に対して、きちんと伝えればわかる、不穏にならないことを願っております。

昨年を振り返りますと、前半はロンドン、東京、ニューヨーク、ロサンゼルスで開催されました映画の審査員から「ベスト監督賞」、野生動物映画祭においては、初めて（野生動物を保護のみだった）自然資源を有効に活かそうとする立ち位置の映画である『ビハインド・ザ・コーヴ』が「新しい視点」の賞を受賞、など前例なき事が立て続けて起こりました。

また、昨年後半においては、IWC 国際捕鯨員会が行われたブラジルでの上映会を紆余曲折を乗り越え開催実施でき、ブラジルの国営 TV 放送と最大手雑誌にポジティブなコメントを発信されたことを後に知りました。

IWC 会議においては、日本に訴訟を起こしたオーストラリアやニュージーランドなど国の代表団に個別インタビューに成功、Yahoo!さんから配信し実態をお伝えすることができました。

これらのことが実現できたのも、周囲や現地の方々の多大なお力添えあって出来た事ばかりです。

今年も皆様に少しでも情報のお役に立てるような映像を発信していきたいと思っております。

平穏で幸多き年になりますよう祈念しております。

12月20日(IWC:日本脱退)

今回の日本の IWC 脱退は、脱退の「手続き」的なことよりも、「地球の共通財産に対して、どうやって理解を深める発信」をしていくか、発信不足だった問題の核心に向き合うことになる。捕鯨問題だけに限らず、国際批判を受けている様々な問題に対し、「プロパガンダへの対応の仕方」が問われ、大きなチャレンジの意味の方が、むしろあると思う。見守る。

今回の投稿の主旨が一部の方に正しく伝わらなかったのか、各方面から「こ脱退をどう思うか」を聞かれています。勿論、大賛成です。今回の脱退は、やっと脱退した、という思いです。

むしろ、袋小路に入ってしまったこの問題に対して、「のび太君から脱出してほしい」、「愛

護団体の実態を海外へ知らせたい」という思いで映画「Behind THE COVE」を製作しました。

IWCに留まっていたら、いつしか全てを奪われる、というのは見えています。「留まって理解を」、なんて言えるのは、実態を知らないから言えるのです。

脱退＝南氷洋を捨てる、ではなく、「受け身の条約」ではなく新しい組織作りが必要だと思っています。

先日、Yahoo!さんにアップした動画をもって、実態をお見せしたとおり、思想がガチガチな相手との不毛な会議であります。科学的証拠も既に示しています。

こちらのFBの投稿でも、「外交の失敗」、というコメントがありますが、私はそうは思っていません。失敗というのなら『これまでの長年の外交が失敗』だと思っています。

この脱退の決断は『真の外交がスタート、力が試される時』、と思っています。

ただ、懸念しているのは、戦略・対策がないままではないか、ということと、関係者間で個々の損益が焦点になり本筋からズレ足を引っ張るような内部割れしているのではないか、というポイントです。

【IWC 国際捕鯨委員会：クジラを捕獲しない方針へ】

国際捕鯨委員会（IWC）の総会が、ブラジル・フロリアノポリスで9月4日～14日にわたって開催された。

日本が目指す、クジラの商業捕鯨の再開やIWCの組織改革については、否決された。

【日本の提案】

- 1) 多数決で採択される基準を3/4から過半数に改正
- 2) 捕獲枠の算出は本来あるべく科学委員会へ指示
- 3) 沿岸200海里の権利
- 4) 持続的捕鯨委員会（クジラの利用）の新設

主に先進諸国を中心に反対票が41票、食料概念が違う発展途上国らから賛成票が27票、棄権は2票だった。

【10月19日】虎ノ門ニュース関連

Takeshi Shimizu 虎ノ門ニュースで打開策として「新しい条約を作る」と提案されていましたが、新しいものに正統性を持たせるのはかなり困難です。それより既存の「捕鯨産業の秩序ある発展を図ることを目的として設立された」国際機関を、捕鯨産業を妨げるような連中が牛耳っていることを批判し、国際捕鯨委員会の精神をきちんと遵守している加盟国による正統派組織というかたちにした方がよいのではないのでしょうか。

八木 景子 清水さん、その「国際捕鯨委員会の精神をきちんと遵守している加盟国による正統派組織」が、否決されたのです。記事の中の4)のことです。

Takeshi Shimizu 組織改革としての持続的捕鯨委員会の新設は否決されましたが、これに対して「新しい条約を作る」のではなく、既存の国際捕鯨取締条約を遵守する正統派組織として（例えば現在

の組織を二分して) 持続的捕鯨委員会を新設するという意味です。そのときには条約を守っていないのは反捕鯨側であることを明確にしておかなくてはなりません。さもなくば、国際法を無視して自分勝手なルールを押しつける中共と同類にみなされてしまいますから。

八木 景子 清水さん、繰り返しになりますが、それが記事の中の4) のことなのです。条約を無視しているのは、IWC 側なのです。明確に既になってます。但し、組織を相手に訴訟が出来ないのも現状で、難解なのです。現在の状況は国際条約や国際会議の植民地化、と言っても過言でなくらいに、西洋主導でボンボコと都合よく発足してしまっているのです。

2018年8月22日【Japan Film Festival: 特別賞を受賞!】

「Behind THE COVE」は、ロサンゼルスで開催されました Japan Film Festival で特別賞を受賞しました。

【難しい課題】と【公平性】を評価していただきました。

今回、本作を見つけてくださって、お声がけ頂いた映画祭関係者やサポートしてくださっている皆様に感謝です!

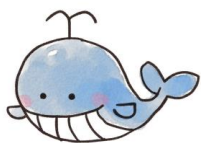
また、素敵な出逢いがありました。

L.A.の現地の学校では、PTAなどが中心に、未だに「ザ・コーヴ」が上映される事があるらしく、日系の親御さんたちは、お子さんを嫌な思いしないよう、「ザ・コーヴ」上映反対をされてきたとのことでした。本作をご覧になった現地の方々からは「Behind THE COVE」が出来たお陰で、もし、「ザ・コーヴ」を上映するなら「Behind THE COVE」も上映するうよう言えるものができて良かった、日本人も主張しないとイケない、と温かいエールを送っていただきました。

作った甲斐があります。

そして、この度、在ロサンゼルス日本総領事公邸では、熊本復興キャンペーンが行なわれており、映画祭関係者もお招き頂きました。今年はアメリカへの移民150年周年ということで、あちこちで「二世 Week」の様々なイベントが行なわれていました。

追記



2018年2月ロンドン国際映画制作者祭にて長編ドキュメンタリー部門最優秀監督賞を受賞。

その他、30以上もの多くの映画祭で様々な賞を受賞されています。

拉致問題

特定失踪者問題調査会 荒木和博代表のメルマガを転載させていただきます。

Sent: Tuesday, January 01, 2019

Subject: 謹賀新年

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。

去年の元旦のメールニュースのタイトルは「今年しかない」でした。そして結局1年が過ぎてしまいました。元旦でもありますし、明るい話を書きたいのですが、結局1年進められなかったこと

は反省するしかありません。

しかし、負け惜しみのようなのですが、これまで拉致被害者救出に関し官民様々な立場の人が様々な場所でやってきた拉致問題への取り組み、それぞれの戦場での戦いは、試行錯誤の連続であるとはいえ必ず積み重ねになっているはずです。

寒い中、あるいは暑い中暑名活動をして下さっている皆さんからは「署名を続けていて効果があるのだろうか」と言われることもときどきあります。確かに署名に応じてくれる人は僅かですし、一回一回の署名がどこまで結果に結びついているだろうかと考えたら「これこれの成果があります」とは簡単に言えないのが正直なところです。

でも、活動している姿は直接署名しない人でも必ず見ているもので、また拉致問題を進展させたくない勢力には圧力になります。社会運動というのはやっているときには砂を噛むようなことばかりで、目に見える結果もあまりありません。でも、ずっと続けてきて、ふと後ろを振り返ったとき「まあ、やらないよりはやった方が良かったかな」と思うくらいのものではないかと思います。

もう一つ言うならば、皆が関心を持ってやるのであれば社会運動をやる必要はありません。拉致問題で言うなら政府や国会、民間が本当に「オールジャパン」になり、自分の力で被害者を取り返そうとしているなら別に運動としてやることはないでしょう。そうはなっていないからこそやる。それが運動に関わっている者の誇りではないかと思えます。偉そうな言い方ですが、これは拉致問題よりはるかにマイナーなことも含め、40年間社会運動に関わってきた経験からつちかった確信です。

「人間には最後まで希望を持ち続ける権利がある。その権利を行使せよ」

御交代の重要な時期、調査会役員一同あらためて頑張ります。本年もご支援・ご指導賜りますようお願い申し上げます。

Sent: Sunday, December 16, 2018

Subject: いのち

今日は政府主催の国際シンポジウムで、その第3部は「ふるさとの風」「しおかぜ」共同公開収録でした。

「あなたを忘れない」を歌う会、「チームしおかぜ」の山口采希さん、宇佐美由美子さん、sayaさん、そして今回は立川七中の生徒さんも加わって盛りだくさんでしたが、途中流れた各地でのご家族からの「しおかぜ」収録の映像は、歌が流れるバックだっただけに正直しんどいものがありました。「あのお母さんも亡くなった」「このお父さんも亡くなってしまった」ということが思い出されました。人の「いのち」には限りがあることをあらためて痛感しています。

ところで、ご家族ではありませんが、私はこのところ2人の友人をガンで失いました。一人はUAゼンセン大阪府支部長だった山阪光男さん。もう一人は予備役ブルーリボンの会の会員で元潜水艦艦長だった中村秀樹さんです。

山阪さんはもともとニプログループ労連の出身で、上部団体であるUAゼンセンの専従になり、秋田県支部長当時救う会秋田立ち上げに加わりました。その後新潟県支部長在職当時も拉致問題に積極的に取り組んでくれました。温厚で人格識見ともに優れた労働運動のリーダーでした。病床に伏したまま9月に大阪府支部長に異動になっていたのですが、10月、新潟県支部の総会には病をお

して新潟まで来られました。ちょうど私も総会の記念講演で呼ばれていたのでレセプションのときお会いしてお話ししましたが、結果的にはそれが最後となってしまいました。11月12日、特定失踪者家族と菅官房長官の面会が実現した日、終わって何人かのご家族と食事をしているときに訃報が入りました。私と同じ62歳。お通夜るとき飾られた遺影にはブルーリボンバッジが付いていました。

中村秀樹さんはFacebookご本人の闘病記を綴っていました。自らの運命を悟りながら、一方で希望は失わず淡々と。特攻機が突入するときに電鍵を押しっぱなしにして、その音が消えたとき敵艦に突入したとされた話はよく聞きましたが、私にはFacebookの書き込みがそんな感じに思われました。最後の書き込みが11月15日。海軍さんらしい、ダンディな人でした。

事務所に近い飯田橋の通信病院に入院されてからも出張だ何だで1週間に1回くらいしかお見舞いに行けませんでした。通信病院では最初から緩和ケア病棟でしたし、私も結構様々な人の死に向き合ってきたので大体どうなるかは想像がつかしました。毎回「もう亡くなられました」と言われるのではないかと覚悟しながら見舞いに行っていましたが、4回目で現実になってしまいました。多数の著作があり、闘病中も自衛隊が拉致被害者を救出する小説を書いていました。資料を頼まれたのですが、果たすことなくお別れすることになりました。12月10日没。享年68歳。

労働組合の役員と元海軍中佐、二人の間に面識はなかったはずですが、天国のどこかで会っていれば闘病中飲めなかった酒を酌み交わしているかもしれません。

いのちはかけがえのないものですが、でも必ず終わりが来ます。ご家族にしろ山阪さんにしろ中村さんにしろ、先に逝った人たちに、やがて再会するときに恥ずかしくないようにしなければと考えている次第です。

Sent: Thursday, November 29, 2018

Subject: 631万円

NHKの報道によれば昨年11月北海道松前小島に上陸した北朝鮮の船員10人のうち1人が胃潰瘍にかかっており、その治療に要した631万円が日本側が立て替えたままで弁済の目処が立っていないとのこと。

自費診療といっても胃潰瘍で631万円もかかるのかと思いますし、あのときは何人も結核にかかっていた人間がいたわけで、その治療費はどうなったのだろうと思うのですが、少なくとも631万円が踏み倒されたことだけは間違いありません。

防衛講演会ご案内

日時： 31年2月17日(日)
講演会：1300～1415 懇親会 1430～1600
会場： 国際ホテル松山
講師： 外務副大臣・参議院議員 佐藤正久氏
演題： 日本の安全保障の課題(仮)
懇親会：会費5000円
主催： 愛媛県隊友会

*お申込は瀬川紘一郎・隊友会会長(090-7783-8314)まで。

大津寄先生のお墓参りご案内

大津寄先生が亡くなられて半年が過ぎました。霊界から今の日本をどうご覧になっておられるでしょうか。

1月19日(土)にお墓参りをさせていただきます。

10時 ふるみつ食堂・コンビニ駐車場に集合→乗り合わせて常福寺に

11時 東石井・北斗七星にてお食事会

13時～14時 坊ちゃん広場 憲法改正街頭活動

ふるみつ食堂は、聖陵高校の前を通過、予讃線の高架を降りて間もなく大明神交差点の左手奥です。

差し迫ったご案内で恐縮です。是非、ご一緒にお参り下さいませ。

☆☆☆ 事務局から ☆☆☆

★2月11日(祝・月)ひめぎんホールで開催されます天皇陛下御即位三十年奉祝・建国記念の日 奉祝愛媛県民大会のちらしを10枚同封させていただきます。近所の方などにお配り下さいますようお願い致します。地元の史談会の七草がゆの場でお配りしましたら、23名の参加者のうち二人の方が参加を申し出られました。竹田恒泰先生の人気にあやかり拡大のチャンスです。村の公民館にもポスターを貼っていただきました。

★調査会の荒木代表のメルマガ転載、長くなります。調査会のご活動にはアタマが下がります。東温市拉致議連の議員数名の方に、市民が救出署名をできる場を市内の行事のときなどに作ることを昨秋お願いしました……。

★東温市での親学講座は第7回を迎えます。参加者数が高知とは桁違いでありまして、杉本先生が松山市内にお越しになるついでとはいえお時間を拘束するのが申し訳なく、覚悟を決めて先生にお伺いしましたら、「いいですよ。費用もあんまりかからんし」というお返事。案ずるよりは産むが易し!大人の教養講座として頑張ります。

★杉本先生共著『子どもの幸せの作り方～門真子ども炊き出しが目指す道～』(500円)を送料込みで500円でお分け致します。この飽食といわれる時代にこんなに貧しい子らがおるのかと信じられない、胸潰れる思いです。実は12月2日の炊き出しには親学講座の受講者数名で興居島のミカンを5箱差し入れさせていただきました。

★八木景子監督から11月4日(日)の上映会にいただいたメッセージを再掲させていただきます。「本作は、日本人の先人達の素晴らしさや、現代に続く国際社会の中の日本を再発見できる映画だと自信を持って言えます」。監督は前日の8日(金)朝、松山に着かれ伊予市の武智利博先生のご案内で明浜町高山に向かわれます。高山には2メートル近くのくじら塚があり、「鱗王院伝法界全果大居士」の銘が刻まれ、町指定の有形民族文化財に。同町の妙高山金剛寺には鯨のお位牌や過去帳もあるそうです。

★護国神社に松山で結成された鯨部隊歩兵第234連隊の慰霊碑がございます。高知の236部隊は「南国土佐をあとにして」の歌で有名ですが、鯨部隊は高知だけでなく四国の各地から集まった兵士で構成されたようです。

★会費の切れる方には払込用紙を同封しております。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。年会費は2000円でございます。封筒のアドレスシールの住所のあとの数字は今まで会費を納入していただいた〈年と月〉を表しています。長期会員の方は〈年〉のみ記載の場合もでございます。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井美智子

〒791-0221 東温市上村甲218番地
電話 090-8971-7721 Fax 089-964-3903
<http://www.mezasukai.com/>
メール michikoaoi25@yahoo.co.jp